

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372501417		
法人名	株式会社パートナーシップ		
事業所名	グループホーム暖楽家 1階		
所在地	愛知県春日井市堀ノ内町2-16-18		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2372501417-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成29年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月担当を決めて季節の行事・喫茶コーナー・誕生会をしています。また地域のボランティアの方や幼稚園の慰問等も計画実施しています。
 ・利用者の生活や意向、「思い」を拾い上げ、月に1度のスタッフ会議や各フロアのミニカンファレンスを実施することにより利用者様1人ひとりへの理解を深め、楽しく安心して暮らしていただけるように努めています。
 ・協力医療機関との24時間の連携体制を整備し、日常健康管理・往診をお願いしています。
 またホームとしては看取りも可能となっており、利用者様および家族の安心につながればと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名のとおり、「暖かくて楽しい家」を目指しており、利用者がホームでの生活を楽しんでもらう取り組みが行われている。毎日の夕方の時間に30分程のミーティングの時間をつくりながら、その日に出動している職員で利用者に関する気付き等を話し合っている。職員間で情報の共有を図りながら、利用者の意向に合わせた支援につなげている。ホーム1階には、多目的に活用することができる交流スペースが確保されており、多くの方に活用してもらえるような働きかけも行われている。ホームの共用空間についても、日中の時間を過ごすリビングと食事を行う食堂が別の場所にあることで、利用者にとってメリハリのある生活にもつながっている。また、食事については、身体状態の重い方に合わせた食事形態の配慮が行われており、可能な限り、自分で食事が行えるような取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に理念を唱和し実現に取り組んでいる。	ホーム名でもある「暖楽家」から考えた理念をつくっており、毎日の朝礼の時間に職員間で唱和を行っている。また、職員に「一年の抱負」を書いてもらう取り組み行っており、理念の共有と実践にもつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の幼稚園の訪問があったり、ボランティアの方が来たりと地域の方との交流がある。散歩等を通じて地域の方に挨拶し、野菜等をいただいている。近所の喫茶店やお店を使っている。	近隣の方とは、ホームからも可能な交流が行われており、祭事等への協賛を行ったり、近所の方から野菜をもらう等の関係がつくられている。また、幼稚園の園児がホームに訪問しており、利用者との交流が行われている。	ホームには、多目的に活用することが可能な交流スペースが確保されている。交流スペースを活用しながら、地域の方との交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	娯楽室を地域の方に色々と使用して頂ける様にしている。(大正琴、舞踊、三味線など)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではそのような報告や話し合いを行っている。	会議の出席者について、今年度は福祉・医療の専門職の方の出席が得られたことで、会議を通じて、ホームの運営に反映できるように取り組んでいる。会議を通じて、民生委員の方との情報交換等が行われている。	会議の出席者が少ない状況が続いている。家族をはじめ、ホームからの参加の働きかけを継続し、会議の出席者が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談事項があれば市役所に出向いたりして連携を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホームからも参加しており、情報交換の機会につなげている。また、生活保護の方が生活しており、市の担当部署との情報交換等が行われている。	受け入れが行われていなかった介護相談員について、次年度より受け入れが行われることになっている。今後の情報交換等の取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしていないが、安全の確保のため、やむを得なくフロア入り口のみ施錠している。利用者の希望があれば、開錠している。	現状、対応が難しい方も生活しているが、職員間で検討しながら、身体拘束のない生活の実現に取り組んでいる。また、ホーム内で勉強会の機会をつくっており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ会議・毎日のミーティング時等に利用者の虐待について身近な例をあげながら虐待防止について話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書・重要事項説明書・パンフレット等を用意し、書類を見ながら十分な説明と話し合いを行い、理解・納得いただけてから署名・押印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。重要事項説明書に市や国保連の相談窓口の連絡先を記載している。 直接お話しいただける場合には、素直に傾聴し運営に反映させている。	ホームでは、家族会と行事への案内が行われており、家族との交流の機会をつくっている。家族からの意見等については、職員複数での対応が行われている。また、毎月のホーム便りの発行の他、個別の報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月スタッフ会議を開き、1人ひとりの意見を聞き取るようにしている。また随時個人0面接を行い、いつでも相談に乗れるような体制を整えている。	ユニット合同の職員会議が行われているが、毎日の夕方の時間に30分程のミーティングの時間をつくっており、職員間で日常的に意見交換を行っている。また、職員間で役割を分担する取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が向上心をもって働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験ある職員が必要な知識や技能を伝えるようにしている。 スタッフ会議等資料をもとに講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人のグループホームと交流する機会を持ち、相互訪問の活動を通じ質の向上に努めている。 また、同業者との交流を図り、助け合いの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人や家族の要望・不安等は、見学・面接の折に十分把握し、その人の生活・人柄をアセスメントにより全員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の望むこと、困っていること等よく話を聞いて、ホームとしてどこまで支援できるのか十分話しをして信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の不安・要望を把握して、ホームとして出来ること・出来ないことを十分話し合い、納得していただけるよう時間をかけている。時には他の医療機関とも連携をとって話しをさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	面接時のアセスメントを参考にしながら、得意なもの等と共に رفتり教えて頂いたりしている。 また職員が「暖かい気持ちで」という理念を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでは家族と情報交換しながら、随時、利用者の様子をホームの新聞、電話等でお伝えし、家族の思いを十分受け止め信頼関係が生れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者がそれまで馴染みだった人達との関係を継続できるように訪問を受けたりして関係が継続できるよう支援するように努めている。	入居前からの友人、知人がホームに訪問しており、一緒に過ごす時間がつくりられている。行きつけの美容院へ家族の支援で継続している方もいる。また、家族との外出の機会もつくりされており、利用者により、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は利用者1人ひとりの個性・性格を把握し、利用者同士の関係性を理解しながら役割を分担したりして、お互いに支えあえるよう見守りしながら支援している。毎日レクを心掛け交流の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約関係が終了した方に対しても、こちらから面会に行き交流させていただいている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1人ひとりの希望、要望を日常生活のかかわりの中で把握できるように努めている。意思疎通の困難な方は家族から情報を得て、職員同士申し送りをし情報を共有している。	職員全員で利用者に関する気付き等を把握する取り組みが行われており、毎日30分のミーティングの時間で話し合わせ、職員間の共有につなげている。また、利用者毎にカンファレンスが行われており、利用者に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ホームでは利用者又は家族から情報を聞き取りアセスメントを作成し、利用者の過去の生活歴・人間関係を把握し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとりの生活リズムを把握し、ホームとして出来ること出来ないことを利用者・家族に理解してもらいながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族の要望、日常生活の中での課題等を常に職員が観察し、定期的にモニタリングを行うことによって、よりよいケアが行えるように介護計画作成に活かしている。	介護計画については、利用者の状態等に合わせて、3～6か月での見直しが行われており、変化に合わせた見直しも行われてる。また、日常的にも、介護記録に介護計画の内容を反映した記録を残すようにしており、毎月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常的なケアの記録は個別ファイルにしており、職員は必ず目を通し、申し送り時には申し送りノートにて引き継ぐようにし情報を共有している。問題点を把握しながら介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の通院・外出・外泊など、家族と協力し柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行事の際、地域ボランティアの方に来ていただくことがある。消防訓練の際に消防署の職員の方に来ていただくこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の希望する医療機関に受診できるよう対応している。通院・往診も必要に応じ対応できるように支援体制を整えている。	協力医とは、定期的な訪問診療の他にも柔軟な対応が可能であり、ホームからの受診支援も行われている。また、協力医療機関の看護師が週1回訪問しており、利用者の健康チェックや協力医への情報提供等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常健康管理として週1回、協力医療機関から訪問看護を受け協力関係を築いている。24時間対応である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ずサマリーを持参し病院で安心して過ごせるようにしている。病院の医師と早期退院に向けた取り組みをし、退院時にスムーズに受け入れられるように準備を怠らないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合でも本人・家族の希望を聞き、医療関係者と連携をとりながら対応できるようにしている。職員間においてはケア体制を確認しながら行っている。	ホームでは、利用者の看取りに向けた取り組みにも前向きに考えており、協力医とも協力的な関係がつくられている。家族とは、利用者の身体状態等に合わせた話し合いを行いながら、ホームの支援可能な内容の確認も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成しているが、現状は協力医療機関の医師の指示にて対応している。 AEDを設置し、講習会を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練を実施している。 また日常的に消火器の設置場所の確認、毎日の火気関係自主チェック表をつけ徹底している。 地域住民にも協力を呼びかけ、日常的に注意して頂けるようお願いしている。	年2回の避難訓練が行われており、今年度は火災や地震の他にも、水害を想定した取り組みを始めている。地域の方とも協力をお願いする取り組みが行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	次回の訓練で夜間を想定した訓練を予定しており、実施に期待したい。また、ホームが立地する地域は、水害が想定される地域でもあるため、水害を想定した訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人のプライバシーに配慮したケアが出来るように努めている。	職員へは「自分の両親に住んでもらいたいホーム」を考えるように伝えられており、日常的な言葉遣い等の対応を意識するように取り組んでいる。また、接遇面に関する勉強会の機会もつくられており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が一方向的に決めるのではなく、いくつかの選択肢を用意し、そこから本人の意志で決めることが出来るように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの生活リズムに合わせ、その日の体調に配慮しながら個別ケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは本人の好みに合わせて行える様に支援している。洋服などの買物と一緒に行き本人で選んでいただくこともある。また訪問理容を利用し本人の望む髪型になるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備に色々な食材を切って頂いたり、配膳・洗い物・片付け等できる限り利用者と一緒にやっている。また一緒に会話を楽しみながら食事をし片付けもしている。	調理については、昼食を1階、夕食を2階のフロアで行っており、重度の方に合わせた食事形態の配慮も行われている。日常的におやつ作りや行事に合わせた食事の提供も行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の献立は、バランス良く偏りのないように配慮している。水分補給は食事以外10時と15時に必ず実施している。またそれら食事・水分の摂取量等は、個人別のチェック表を作成し記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員が口腔ケアチェックを行いチェック表に記入し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	できる限りトイレで排泄できるように、1人ひとりの排泄パターン・時間を考えながらトイレ誘導しているし、リハパンチェックも行っている。	利用者全員の排泄チェックを行っており、毎日のミーティングの時間も活用しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。職員間で記録方法を検討しながら、新たに時間によるチェックも行っており、トイレへの排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事、水分、運動等を考慮し各人にあった働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日と順番の変更は可能な限り本人の希望を取り入れるようにして、入浴を楽しんでいただいている。	入浴については、週2回の入浴が行われており、時間は午前に行われている。重度の方についても、職員複数による対応が行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	職員は、利用者が日中は活動し夜間良眠できるように、1人ひとりの生活リズムを把握している。時には適時休息をとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力医療機関・薬剤師の指導の下、薬剤の理解と体調変化の把握について職員全員に徹底されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴や日々の生活から、利用者1人ひとりの得意なこと、興味があることを把握し、張り合いのある生活を送れるように、役割を分担して率先して行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常、散歩に出かけたり買物や喫茶店等に出かけることで、気分転換や季節感を味わっていただいたりしている。	季節やその日の天気等にも合わせながら、ホーム周辺への散歩や買い物等による外出が行われている。また、季節に合わせた花見や公園への外出行事も行われている他にも、少人数での喫茶外出等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物に出かけたり喫茶店に行ったりした際、ご自身の財布から支払うことにより安心感を得ていただき社会性の維持を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が今過ごしている場所が落ち着いて生活できる場所であると思えるように、日常過ごすホール・食堂に家具や備品を設置し、季節感が味わえる壁飾りにも工夫している。	リビングについては、中央に壁があることで、利用者のプライバシーに配慮したソファの配置が可能であり、適度な距離感を保つことができる。また、リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ位置等を配慮し個人の休める空間や仲の良い方同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際にはできる限り長年使用した物を持ってきていただき、従来の生活環境を変えないように促している。	利用者により、様々な家具類の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気のある居室もあり、利用者に合わせた居室づくりが行われている。また、使い慣れた物や化粧道具を持っている方もおり、利用者の意向にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホームでは利用者の自立を促すことができるようキッチン・浴室・トイレ・エレベーター・ホールなど生活空間の安全な環境整備に取り組んでいる。		